

第3回京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議（スポーツリエゾン京都）

会議摘録

日 時：平成25年11月12日（火）午後4時00分～午後6時00分

会 場：京都市役所E会議室

出 席：＜委員＞ 山下委員長，飯田委員，石野委員，高屋委員，檀野委員，松永委員，
長谷川委員，三浦委員，森井委員，福林委員，

＜京都市＞

（文化市民局市民スポーツ振興室）

西田市民スポーツ振興室長，下間京都マラソン担当部長，平松スポーツ企画課長，土橋スポーツ振興課長，安田施設担当課長 ほか

（オブザーバー）

教育委員会事務局体育健康教育室，保健福祉局長寿福祉課

1 開会（事務局）

2 委員長挨拶（山下委員長）

この会議も発足して早2年，いよいよ3年目に突入する。そろそろ当会議の在り方をしつかり定め，明確化する必要がある。これまで手さぐりでやってきたが，改めて会議の目的をはっきりさせたい。そういう意図も本日の会議にはある。会議のあるべき方向を見いだせればと思う。

3 新委員の紹介（三浦委員，福林委員）

4 議事（事務局 資料2）

「京都市スポーツの絆が生きるまち推進プラン（京都市市民スポーツ振興計画）の進捗状況（平成24年度事業概要）及び東京オリンピック・パラリンピック開催決定等を契機とした市民スポーツの振興について」

○ 京都市スポーツの絆が生きるまち推進プラン（京都市市民スポーツ振興計画）の進捗状況（平成24年度事業概要）

資料説明（事務局・平松課長）

- ・山下委員長 ただいまの説明に対して，何か質問はあるか。
まずハードウェアについては，今年度はやや新規項目が増えているように思う。
- ・檀野委員 西京極アクアリーナをはじめ全国的にプール施設ヘシチズン製の電光掲示板が普及したが，現在はセイコーかオメガが推奨されている。日本新記録が出た場合に反応しにくいということで，京都市に設置を要望し，昨年度更新していただいた。全国では長野，北海道，京都でセイコーを導入しており，大きな大会が誘致できるようになった。今年度ゴールドマスターズを誘致でき，新記録も出た。水泳

に関しては平成 27 年度に京都でインターハイが開催される。大きな大会を誘致できれば、選手だけでなくその家族や関係者が京都を訪れ、京都の活性化につながる。今後とも大きな大会を京都に誘致していきたい。

- ・高屋委員 先日の市民スポーツフェスティバルのリレー競技において、選手にスタートの音が聞こえずフライングが多発するということがあったが、原因はわかったか。
- ・事務局（土橋課長） 確かに何回かスタートのやり直しはあったが原因はまだわかっていない。
- ・事務局（西田室長） 正確にタイムが測れるということで、電子ピストルを導入している。原因については確認しておく。
- ・福林委員 せっかく最新式の電子ピストルを導入したので、御指摘の原因についてはしっかり確認し、次回の改善につなげたい。
- ・松永委員 台風 18 号による施設への影響は特になかったのか。京都府では運動公園などで対応が必要なものが出ているようだ。
- ・事務局（西田室長） 施設への雨漏りのほか、河川敷にある桂川久我橋東詰公園と宇治川公園においてグラウンドが完全に浸水し、表土が流出する事態が発生した。早急な復旧が必要となり、先の 9 月市会に急ぎよ 120,000 千円の補正予算を提案し、議決いただいたところである。現在、業者を選定して、早急に市民の皆様にご利用いただけるよう整備を進めているところである。
- ・山下委員長 ソフトウェアについての意見はどうか。宗教者による駅伝とはどういうものか。
- ・事務局（下間部長） 京都マラソンとは別の実行委員会を宗教者に立ち上げていただき、同じ日程、同じコースで同時に開催する。世界的にはルクセンブルグ市民マラソンにおいて、違う宗教間で 4 人一組になりタスキをつなげてマラソンを実施している。宗教はややもすれば対立の火種となっているが、異なる宗教間でタスキをつなぐことが、民族や宗教、国家の枠組みを超えたものとして平和の象徴となる取組である。日本で、しかも宗教都市である京都で実施すべきとの御提案をいただき、今回実施することになったものである。
- ・山下委員長 「まちなか」コースの導入を検討しているというのはどういうものか。
- ・事務局（下間部長） 第 4 回大会からコースの変更を計画している。狭い京都において 42.195 キロメートルを確保することは非常に難しく、現コースも 100 通り以上のコースを検討したうえで決めている。第 1 回、第 2 回と開催し、京都マラソンは一定定着したものと思っているが、さらに魅力を高めるために、現コースにない要素として、「まちなか」の景観を取り入れるべく、先般素案を発表したところである。現在、沿道対策や交通対策の検討を行っているところであり、ぜひ

る「地域の体育振興会の推薦をいただく」ということはかなりハードルが高く、それが定員が埋まらない要因の一つではないかと考える。スポーツ推進委員に興味を持っている学生もおり、単発のイベントなどで学生の力を借りるということは非常に有効である。今までの制度を堅持しつつ、定員を埋めるための新たな仕掛けが必要だと考える。

- ・高屋委員 スポーツ推進委員が、言葉どおり「推進」する役割であれば良いが、スポーツ大会での審判等、区のスポーツ振興を下支えしている部分が大きいため、お手伝い的なことが役割であると受け取っている方には重荷になるようである。各学区や市からスポーツ推進委員の役割や考え方をもう少しきちんと説明していただければ、各スポーツ推進委員の考えも変わってくると思う。学生はニュースポーツ等を広めていく力になると思うし、専門的な知識を有する学生がいればそういう面でも活動してもらえる。そういう枠を新たに設けることも一つの手法である。
- ・長谷川委員 私も同様の提案をさせていただいたことがあるが、体育振興会の規約の中に、「会長推薦がないとスポーツ推進委員になれない」との規定がある。規約における責任の所在が、区や市、体育振興会の間でぐるぐる回っており、これは長年の課題であると感じている。
- ・高屋委員 スポーツ推進委員は準公務員的な立場にあり、体育振興会の推薦を受け、市から任命されている。スポーツ推進委員が、頼まれたからやっているという認識では問題である。
- ・檀野委員 私が住んでいる二条城北学区では、スポーツが好きな50代、60代が中心となり、活発に体育振興会の活動をしている。学区によって活動の温度差が極端にあるように思う。
- ・福林委員 地域間で温度差があるということは従前からの課題である。団塊の世代を中心に熱心に活動されている地域もあるが、継続的に活動していくためには、後継者をどうするか、また、地域間における温度差をどうするかという課題がある。我々も現段階では妙案がない。短期的には、学生の力を活用することは一つの手法ではあるが、長期的な視点で見れば、やはりスポーツ推進委員の働きは大きい。さまざまな意見や知恵を頂戴しながら検討していきたい。
- ・高屋委員 スポーツ推進委員は、スポーツが好きで、自分もスポーツをする方でなければならない。私がいつも地元で言っているのは、「スポーツで広げよう地域の輪(和)」。右京区ではスポーツ推進委員だけのスポーツ大会を実施しているが、そうしたスポーツ推進委員自身も楽しめるようなフォローが必要である。
- ・山下委員長 地域に根差した活動と革新的ことをやりたいという人をつなぐこともリエゾンの本来の役割である。

○ 東京オリンピック・パラリンピック開催決定等を契機とした市民スポーツの振興について

資料説明（事務局・平松課長）

- ・山下委員長 東京オリンピック・パラリンピック開催決定のタイミングを生かして、我々に何かすべきことがあれば御意見をいただきたい。また、振興計画の中間見直しまではまだ時間があるが、見直しに向けてこの議論を活用したいということでもある。まずは何でも結構である。自由に御議論いただければと思う。
- ・檀野委員 現在中学2年生から高校2年生くらいの年齢の競技者が、7年後に大学在学又は卒業となる。これらの競技者をどのように導いていくか、また、中学校等で指導している方々にどういう思いを持って指導していただくか、さらには、障害者にはどのような支援、応援をしていくのかが大きな課題であると思う。一人でも多くの選手に出場してもらえるように競技レベルの底上げにつながるような支援ができればと思う。
- ・山下委員長 先ほど、行政の縦割りにについての御意見があったが、例えば、障害者スポーツ選手の育成を手掛かりに、関係局等間で連携を図るということも検討できるのではないか。
- ・森井委員 東京オリンピック・パラリンピックは大きな大会なので、7年後を目指して取り組んでいく子どもたちはたくさんいる。
 オリンピックの開催は、「する・みる・支えるスポーツ」の振興の底上げにつながる。高齢者は見るのを楽しみにするだろうし、我々もボランティアとして関わっていきたいと思う。
- ・高屋委員 選手の育成も大事だが、オリンピックによってこれまで注目されていなかったスポーツが注目を浴びるなど、市民スポーツのかたちが変わるきっかけになる。そういう面でもオリンピックに期待している。
- ・松永委員 スポーツ表彰について、種目によっては、小学校高学年、中・高・大学生の競技者については京都市で表彰しているが、残念ながらあまり知られていない。京都市に表彰されることは名誉なことであり、市民に関心を持ってもらういい機会になる。その意味では、スポーツの殿堂とタイアップしている年末の表彰式は、注目のある選手等が来られる場合には注目度も高くなり、表彰を知ってもらえる効果は大きい。2020年に向けてもっと京都で活躍している、そして東京オリンピック・パラリンピックで活躍しそうな競技者の広報を工夫するなど、マイナースポーツであっても、若年層であっても、早くから市民に認知していただけるよう、広報の強化を検討願いたい。
- ・事務局（土橋課長） 表彰に際して広報発表をしており、来ていただいたメディアには取り上げていただいている。
- ・檀野委員 できるだけ多くの方に知っていただけるように情報発信の場を広

げていただきたいということであるが、我々としてどれだけお手伝いできるだろうか。

- ・高屋委員 ホームページに市民スポーツの結果を載せていただくというのはどうか。

○ 協働型事業の実施支援による市民スポーツの振興について

資料説明（事務局・平松課長）

- ・山下委員長 本来のリエゾンの役割は、第三者的な立場で協働を求める方の活動を支援するというものであり、協働型事業の実施機関ではない。今回の提案はその性質をはっきりさせるものである。インフォーマルな団体が他の団体とつながりたいという声等を拾い上げてつなげていきたいと考える。
- ・高屋委員 「協働相手をあっせんする」という表現がわかりにくい。単にグラウンドの貸し借りといった内容と勘違いする人も出てくるのではないか。
- ・事務局（平松課長） そうならないように、対象とする内容をできるだけ具体的に例示したい。
- ・山下委員長 市民のスポーツ団体の中には、我々が知らない団体が存在しているかもしれない。そうした団体に登録してもらい、他団体と協働するチャンスを与えることができればと思う。
- ・松永委員 この取組は、ホームページの内容次第で左右される部分が大いのではないか。文字だけではわかりにくく、一般の人にも受け入れられやすい表現やわかりやすい事例の紹介などが必要である。
学生も、スポーツ推進委員までは任せられなくても、手助けはできるかもしれない。また、対象とする団体等は、「責任を持って活動してもらえる団体、サークル」などといった緩やかな縛りを設け、事例として紹介してはどうか。
- ・事務局（西田室長） たくさんの方に見ただけのよう、事例も含めて市民目線に立った表現を工夫したい。
- ・山下委員長 では、ホームページをわかりやすくすることから始めてみたい。ただし、取組が場当たりのにならないように、取組の対象とする団体等の範囲をある程度特定するなどの工夫は必要である。
- ・高屋委員 NPOなどは地域で面白い活動をされており、様々な協働を期待できる団体があると思う。また、スポーツを教えてほしいという声もよく聞く。いい仕掛けを考えていただきたい。
- ・事務局（平松課長） まずはホームページを立ち上げ、工夫を重ねていきたい。
- ・石野委員 この取組で具体的に何をしようとしているのかわかりにくい。我々市民は楽しくスポーツをやっていこうと考える。ホームページや広報をどうしたらよいかという議論が進んでいるが、市民の活動、ニーズ等は多様化している。全ての内容を網羅しようとする対象

が広すぎるため、ある程度対象を絞って実施してはどうか。

- ・山下委員長 要綱改正案についての意見はどうか。

<全委員 異議なし>

5 報告

「京都マラソン 2013」に係るアンケート調査等の報告（松永委員）

資料説明（松永委員）

- ・山下委員長 ランナー向けのお風呂というのはどういうものか。
- ・松永委員 銭湯やサウナを紹介するお風呂屋さんマップを京都市が作成されている。
- ・事務局（下間部長） 全国で初めてそうしたマップを作成し、少し早い時間から開けていただいたり、スーパー銭湯での割引も実施していただいている。
- ・長谷川委員 京都マラソンを楽しみにしている市民は多い。
- ・三浦委員 お風呂屋さんマップはいいアイデアだと思う。

6 その他

なし

7 閉会

- ・事務局（西田室長） 市民スポーツ振興計画の中間見直しに向けて、委員の皆様から頂戴した御意見等については、事務局で整理させていただき、できればできるだけ早い時期に改めて議論いただく場を設けたいと考えているので、その際はよろしくお願ひしたい。